

自己評価表

- 自己評価表は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めてください。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- **自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。**家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービス成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないに関わらず事実を記入。)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム本荘やすらぎ苑
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	秋田県由利本荘市石脇字山の神11-383
記入者名 (管理者)	東海林 澄子
記入日	平成21年2月1日

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	在宅介護を基本理念として温かいホーム創りを目指している。	○	個々の出来る能力の引き出しをして地域の皆さんと益々の交流を深めていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を掲げ（玄関と事務室）理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	○	運営理念の実現に向けて毎朝各自唱和をしている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居契約時や面会時について折に触れ話し合ったり地域の交流時や町内の広報に載せて頂いたりして理解してもらおうよう取り組んでいる。	○	来苑時や運営推進会議を頂いて地域の理解を得ながら実践に繋げていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	常に近隣を意識し、通り掛かりに声を掛けたりイベント、行事への参加の声かけを行っている。	○	今まで以上に近隣の皆さんと交流を深めていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入っており地域活動に参加するように心がけている。5月のお祭りには山車と子供達の踊りと苑庭での休憩が恒例となっている。「わかかさ会」の踊りの会やボランティア（小学校、子供会）も恒例となっている。	○	年末の老人クラブによる「クリスマスカラオケ会」や苑の巨木にクリスマスツリーのイルミネーションを飾り、子供会や園児の皆さんと「イルミネーション点灯式」を行い楽しんで頂いている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近隣の高齢の方に声かけをして苑の入居者との交流を呼びかけている。	○	今後も引き続き地域や近隣の高齢の方々にどのように関わっていけるか検討したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日常的に評価を意識してもらい、朝のミーティング時に改善の取り組みを行っている。	○	利用者やそのご家族に評価結果を説明し、意見や希望を聞き今後の改善に取り組んでいる。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議で現状の報告及び改善等を公表し、意見等を頂きサービスの向上につなげている。	○	運営推進会議の意義や目的・活用方法をみんなで考えるため話し合い（研修）を定期的に行っている。また、職員による研修（運営推進会議について）も行っている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市とは必要があればその都度連携を取り、向上に取り組んでいる。	○	市で開催している月に一度の「地域ケア会議」に出席し、市や他事業所の情報や動向が得られる。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は研修を受けており、必要に応じて活用できるようにしている。	○	権利擁護に関する制度についての講習会等に、今後職員にも参加させたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を受講し、他の職員にも報告し、防止に努めている。	○	「虐待防止委員会」を立ち上げたので、今後虐待防止に向けて取り組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、理解・納得して頂き入居している。	○	契約時は一度にたくさんの説明や書類があるため、ご家族も覚えきれなかったり忘れていたりする事もあるので、機会を見て必要に応じて確認を取るようにしている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・不満・苦情を訴えた時は管理者や職員、外部にも相談できるようにしている。	○	今後、第三者委員会を設置し、外部との関りも考慮していきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	必要のある時は、そのたびに連絡を取り行っている。また、月一回のご家族への手紙を出している。苑たよりも発行している。		3ヶ月に一度の「苑だよりの発行」や、毎月末には、一人一人に手紙を書き苑の様子を知らせている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と同様、外部にも相談できるよう説明し、相談機関を掲示している。また、どのように対応したかを文書化して解決策につなげている。	○	今後も折に触れ本人やご家族に打診し、運営に活かすようにしたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度の全体会議で意見や提案をしてもらい反映させている。	○	定例会議は今後も行っていきたい。また、必要があればいつでも臨時招集をかけ全体会議を行う用意がある。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況の変化に応じての話し合いは朝のミーティングの他に常に行っており勤務の調整に努めている。	○	今後も今以上に柔軟な対応を心がけたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今のところ異議はないが、離職の場合は個々に応じた対応をしている。	○	今後は移動も考えられるので、利用者にダメージやショックを与えないように考慮したい。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年次計画を立て順次講習会やステップアップ講習を受けさせている。	○	県の研修は率先して受講させ、その他（保健所、医師会、グループホーム協会、救急救命講習会他）も積極的に受講させている。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会を通じての交流や近隣の同業者との夏祭り等の交流を定期的に行っている。	○	同経営の湯沢との交流をもっと進めていきたい。また、毎年夏祭りに招待して頂いている皆さんを当苑にも招待できるように今後検討したい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	業務が過重にならないように、また仕事の悩みを一人で抱え込まないように取組み、時折ストレスについて話し合っている。	○	夜勤明けの翌日は必ず休みを入れている。また、有給休暇も活用している。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格の取得等、各自向上心を持ってマンネリ化しないよう努めている。	○	運営者は資質の向上を目指し、国家資格のための教材や必要な月刊誌を購入し、いつでも学べるようにしている。全ての職員が国家資格取得のための努力を望んでいる。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	常時本人を観察したり、不安の解消に努めたり、訴えの少ない人の引出し等に努めている。	○ 入居前に必ず本人に見学をして頂き入居を進めている。個々の性格や病気を考慮し、苑に慣れる事から始めている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	来苑時、又はケアプランの話し合い時などに聴く機会を設けている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先順位の高いものから、即必要としている支援に取り組む対応をしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	本人の意向を重視し、無理なく自然に馴染むように取り組んでいる。	○ 本人の様子を見て、暫定プランとして2週間から4週間のプランを本人家族と相談して無理の無いように行っている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共有の支えあいに取り組んでいる。	○ 人生の大先輩としてお互いに学び合い、尊敬し合って協力しながら支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に協力して本人を支えていくよう努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまで以上に本人との良い関係が築かれるよう努めている。	○	本人と良い関係が出来ていなかったり疎遠になっている肉親については、少しずつ良い関係になれるよう本人と相談しながらも、良い関係が築けるよう支援している。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と協力して行っている。	○	入居前に交流のあった友人等に手紙を出したり、本人の希望で電話をかけたり訪問したり、出来るだけ今までの関係が切れないように支援している。また今後も行っていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が和やかに関れるように職員が仲に入り行っている。		食事時やおやつ時は自室に居る人をお互いに迎えに行ったり呼びに行ったりしている。朝起きの遅い人も呼びに行ったりしている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要に応じて関係を切らないように取り組んでいる。		左記に同じ。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活パターンに応じて個々の自由の尊重に努めている。	○ 若年や中年の利用者の場合、自分は高齢者ではないとの自覚が強く、苑の行事に積極的に参加しない傾向があるので、強制はせず本人の気の向いた時に参加してもらっているが、参加をしていただく努力は今後も続けていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の意向や希望に添った生活を送って頂けるように努めている。	入居前の十分な聞き取りや情報収集、家族やサービス事業者、関係者等に経過をお聞きし把握に努めている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の状態に応じた過ごし方をして頂いている。	左記に同じ。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族・関係者とのカンファレンスを行い、要望や希望を取り入れて計画を作成している。	苑のスタッフ（介護従事者）とも話し合い、意見を出してもらい計画を作成している。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期計画と長期計画を立て、それ以外にも必要があれば見直しを行い本人やご家族と話し合い、現状に応じた計画を作成している。	ケア計画の見直しは短期で2週間、1ヶ月、2ヶ月と本人の状態に合わせて行っている。変化が生じた時や、急遽見直しが必要な場合はその都度関係者と話し合い、現状に即した計画を心がけている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		<p>朝の引継ぎ、ミーティング時、10時、15時のお茶の時間に、夕方の夜勤者との引継ぎ時、他に随時気が付いたときにすぐ話し合いを行いケア計画に活かすようにしている。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>		<p>左記に同じ。</p>
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している</p>		<p>運営推進会議のメンバーの皆さんの他に、地域のおまわりさん、定期・不定期のボランティアの皆さん、小学校や近隣のボランティアの皆さん、往診の先生や薬剤師さんの協力を仰いでいる。</p>
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>		<p>左記に同じ。</p>
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>		<p>問題解決の困難な利用者については、解決に向けて一緒に取り組んでいただいている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		左記に同じ。
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		左記に同じ。
45	<p>○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		左記に同じ。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		左記に同じ。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	以前は重度化や終末期の方も家族や主治医と十分に話し合って受け入れてきたので、悪化した場合は医療の受け入れが整っていれば受入れは可能である。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事象 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	話し合いは十分に行いダメージを防ぐことに努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	個々のプライバシーを尊重し、言葉使いは基本的には敬語で行い、個人情報の取り扱いも慎重にしている。	事務室の介護記録の名前はイニシャルで記入し、自分のものと分からないように配慮したり、机上の氏名記入のあるものは常に裏返して置くようにしている。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	訴えの少ない利用者への希望や表出の引き出しに努めている。	左記に同じ。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	本人のペースを尊重して支援している。	苑では原則として3度の食事と、午前と午後のお茶（おやつ）に食堂に出てきて頂くが、それ以外は自由に過ごしていただいている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	ご家族とも話し合い、協力等もして頂き本人の希望する方法で支援している。	化粧を希望する女性がおおり、毎朝行っている。就寝前は洗顔フォームで化粧を落としてもらっている。本人が希望する限り続けていきたい。

項 目		取り組みの事象 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は唯一の楽しみなので個々の好みを聞いて食事に取り入れている。また、一緒に準備や片付けを行っている。		苑外での食事を楽しむ事も行っており、時々全員で好きなものを注文し外部での食事を楽しんでいる。大好評なので今後も続けていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ時は大好きな飲み物を聞いたり、選んでもらったり食事も希望を取り入れながら楽しめる工夫支援を行っている。	○	アルコール禁止の利用者がいるため、アルコールを出していないが、他者からの希望があれば検討していきたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	個々の尊厳を損なわず、気持ちよく排泄指導できるよう心がけている。		本人やご家族の希望を取り入れ、実現可能なオムツ外しに取り組んでいる。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日や時間は午後と決めており、その中で実施している。個々で楽しめるよう、ゆっくり入っていただくことを心がけている。		入浴の拒否が強くても、本人の状態を考え上手に誘導して入って頂いている。しかし、あまり拒否の強い時は無理強いをせずに入れない時もある。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の情報に合わせて対応している。		自室以外の縁側や和室、廊下、居間等各自好きな場所で過ごしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々に応じた役割や、個々の好きな生活が出来るよう生活の変化を楽しめるよう支援している。		個々の出来る範囲で畑を耕したり、野菜や花を植えたり、自分の洗濯物を干したり取り込んだり、畳んだり、食事の配膳や片付け、自室の掃除、一緒に買い物に出かけたりと、それぞれの出来る事を行っている。


項 目		取り組みの事象 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に応じたお金の所持や管理をしている。		常時、自分で所持している人もいるが、大半は苑で預かっており、外出時や通院、外食時に本人と相談しながら所持していただいている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	苑庭には自由に出ているが、散歩や買い物の支援は、本人の希望に添って行うようにしている。		本人の希望によりいつでも自由に散歩させているが、帰って来れない方には同行している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段から行きたい場所等を聞き出し、個別に対応したり、家族と共に出かけられるよう支援している。		春のお花見、新緑のドライブ、年1回の遠出の日帰り旅行等、利用者の希望を取り入れ行っている。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に掛けられるように置いてある。手紙は代筆を行って出したりしている。		恒例の年賀状を出している。自分で書けない方は職員が代筆で本人と相談しながら出している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室や和室でくつろげるよう、環境が整備されている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成し、原則として身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。		身体拘束をしないケアを今後も引き続き行っていきたい。

項 目	取り組みの事項 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		<p>個々の能力に応じて見守りをしながらハサミやカッターを使用させているが、編み物を常時行いたい方は夜間のみ編み物針を預かっている。</p>
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	<p>転倒防止体操を取り入れているが、年々重度化してきて、行う方が少なくなっているが転倒防止のためには今後も行っていきたい。</p>
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている</p>		<p>順次、救急救命講習を受講させ急変や事故発生に備えている。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>今後も定期的に避難訓練を行い、近隣の人々にも協力して頂けるよう働きかけていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	契約時に、起こりうるリスクに関しては事前に話し合いを行っている。		自傷他傷の恐れのある利用者に対しては、その都度家族と連絡を取ったり主治医と相談したりし、なるべく本人には抑圧感を抱かせず支援している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェック時（血圧測定）に限らず、常に体調の変化を見逃さず対応を取っている。		往診の先生にいつでも相談でき、即対応が可能である。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は個々の内服薬の内容を把握し、病状の変化を見逃さず対応するようにしている。		病状に変化があったり、内服薬に変更があった場合は回覧をし、月日と印を押し変化に対応している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の予防のため十分な水分摂取、適当な運動、調理への工夫等を行っている。		頑固な便秘症な方や、認知により確認できない方は医師と相談し、便秘薬を処方してもらい個々に応じた対応をしている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨きの声かけや、見守り、個々の状態に応じた支援をしている。		人によってはチェック表を作成し、確認を行っている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた食事の量や水分を提供している。		水分量の不足している人には、口当たりの良い物や、飲み物等で水分不足に陥らないよう支援している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防マニュアルに添って対応している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	専任の担当者を決め責任を持って食中毒の予防・衛生管理に努めている。		調理員はもちろんの事スタッフも日々食材の賞味期限や食品の鮮度、新鮮な食材の購入に努め、使用器具の殺菌漂白と衛生管理に努めている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前や通り道には季節の花を植え近隣の人たちにも親しみやすく出入り出来るようにしている。		玄関の段差や、玄関前の段差等はスタッフの声掛けや誘導介助により安全に出入りするよう支援している。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間には常に季節の花を飾り、臭いのこもる時は窓を開けて換気をしたり、日差しの強い時はブラインドを下ろしたりと快適に暮らせよう配慮や工夫をしている。		気持ちよく過ごせるよう取組んでいる。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室や縁側にはくつろげるよう椅子を置いてあり、自由に過ごせるようになっている。		各自の好きな時間に好きな場所でそれぞれ過ごしている。

項 目		取り組みの事象 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	居室には自宅から持込んだ寝具や、お気に入りの 物を置いて居心地よく過ごせるようにしている。		本人の希望により、小テーブルを持込んだり小物 や雑誌等を置いている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	起床後や掃除等の時は窓を開け、きれいな空気 を入れるようにしている。		温度調整は個々に応じてその都度こまめに行っ ている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	個々の身体状態に応じた居室に入っ ていただき、安全に自力で生活出来るよ うに工夫している。		ベット希望者にはベットを用意し、和室で布団利 用希望の方は自分の布団を搬入していただい ている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよ うに工夫している	個々の力を活かして暮らせるよ う工夫している。		文字の認識が出来る方のために、必要な場所 にわかりやすく大きく貼り紙をしている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽 しんだり、活動できるように活かしている	縁側から庭を眺めたり、外に出て草花を植 えたり、苑庭を散歩したりと活動出来る ようにしている。		苑庭で過ごしたり、畑に野菜を植えたり好 きな草花を植えたり、それを縁側で眺 めて楽しんだりして、時には草取り、 水やりをして楽しんでいる。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・転倒防止運動に取り組んでいる（特に足首の運動をメインに行っている） ・面会に見えた方がいつでも気軽に泊まれるようにしている。